

平成26年度 妙高市教育研究会 国語部の活動報告

部長 荒川 圭子

部員数小学13名 中学6名 計19名

1 研究主題 「学習指導要領の趣旨を生かした国語力の育成」

2 研究の概要

妙高市教育研究会国語部会では、昨年より我が国の伝統や文化の継承として位置づけられた古典学習の実践を重ねてきた。とりわけ「我が国の言語文化にふれて感性や情緒をはぐくむこと」に重点を置いた。そこで、今年秋の一斉研修会では、「古典を親しむ・古典を楽しむ」というテーマの下、授業公開と協議、講話により研修を深めた。

3 研究の実際

(1) 夏の一斉研修 平成26年8月21日(木) はね馬アリーナ

ミニ講話 書写指導 ワンポイントレッスン 講師 荒川 圭子

(2) 秋の一斉研修「授業公開及び研究協議」 平成26年11月11日(火) 新井南小学校

授業者 保阪 国馨 教諭

単元名 伝統文化に親しもう 教材名「柿山伏」(5年)

単元の目標

- ・狂言の台詞の調子を楽しみ、ストーリーの面白さについて考えようとしている。
- ・日本の古典芸能である狂言の特質と形式を知り、言葉の響きやリズムを味わいながら、音読したり演じたりすることができる。

ミニ講話 「伝統的な言語文化の授業づくりについて」

講師 上越教育大学准教授 佐藤多佳子 様

「日本語のリズムや調子に繰り返し浸り、古典で遊び、楽しむこと」「昔の人の見方や考え方を、今の自分と比べながら感じること」「現在との共通点や相違点を、言葉を通して考えること」を大切にしながら、教師も古典の学習を楽しみながら進めていこうと確認し合った。古典に親しむ意味を確認するとともに、古典を指導する意義を実感できる研修会となった。



4 成果と課題

(1) 成果

公開授業では、狂言「柿山伏」の音読を通して、子どもが「独特の言い回しや語り口を楽しむ姿」「言葉を手がかりにして、人物を想像しようとする姿」が見られた。映像資料や上教大院生とのTTでの演技が効果的であり、小道具の扇子や袴が古典の空間を演出していた。全体として、児童たちが学習を楽しんでいてよかったし、次の授業への期待も高まっていた。授業後に「とぼうぞよ。ひい。」と掛け合いをしながら帰って行く姿も見られ、授業の目的である「古典に親しむ、古典を楽しむ」授業になっていた。

(2) 課題

話の続きを予想させるという課題が自由で広がりがあり、古典の面白さを感じる学習につながっていた。ストーリーの面白さに関わる点で、小学校での指導の場合どこまで教えればいいのか難しく、中学校での古典学習とのつながりはどうかと考えさせてくれるいい授業だった。理解のベースとなる読み取りは、小学校でもやはり必要ではないか。理解が深まることで、より面白さが実感できるという面がある。時間の制約や面倒だ、難しいという感覚を抱かせずに、いかに話の流れを理解させるかがポイントである。